

早稲田大学 第一文学部 日本史 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	第1問に非常に難しい問題がいくつもあるため、全体に難しくなった印象を抱くが、逆に文化史の大問が非常に易しいため、昨年よりやや難しくなった程度である。さすがに昨年レベルの問題では点差がつかなかったのだろう。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	弥生時代	問1・6・7が難問。問1はイを正文と判断した人が多いだろうが、『魏志』倭人伝にはけっして「三角縁神獸鏡」を与えたとは書かれていない。だからこそ、卑弥呼がもらった鏡をめぐる論争がおきているのである。また、問7は世界史の知識がそれなりにあれば解けるだろう。	やや難
II	古代の都城	問3・8がやや難しい。選択肢をよく比較して正解を導き出そう。こういう思考して解く問題が目立つのが早大日本史の特徴で、それを正解できる能力を高める学習が必要とされるのである。それは単なる用語暗記だけではできない。日本史を暗記科目ととらえている人は、認識を改める必要がある。	標準
III	中世の史料	未見史料も含まれているが、十分判別可能で、全問正解も可能である。	やや易
IV	江戸時代後期の外交	早稲田ではあまりに定番なテーマからの出題。ただし問3は難問、問6はやや難。	標準
V	十五年戦争	問1・5の正誤問題は消去法で解く。一見細かそうに見えるできごと、正確な時期を覚えていないと対処できないことがよくわかる問題である。早大入試対策として近現代を細かく学習することは必須である。	やや易
IV	古代～近代の美術	毎年、最後の大問は文化史と決まっているようだ。ただし、それほど難しい問題はなく、図版も有名なものをチェックしていれば解けるようである。	易